やまがたゆきみらい推進機構

Organization of Promotion for Yamagata Yuki-Mirai

消融雪設備技術展示会

第平成２７年１０月２５日・２６日

雪かき塾（楯岡高等学校）

平成２８年１月３０日

雪氷熱利用県産品調査（一例）

雪かき体験交流・共助による地域除雪

第平成２８年２月６日

平成 28 年度

目　　次

１．やまがたゆきみらい推進機構の概要..... １

２．組織図..... ２

３．会員登録状況..... ３

４．平成 28 年度の事業計画..... ４

５．平成 27 年度の取組み..... ５

１）総会・記念講演会の開催..... 5

２）運営幹事会の開催..... 5

３）各専門部会の開催..... 5

４）主な事業活動..... 6

① 除雪ボランティア活動の拡大に向けた支援..... 6

② 安全な雪下ろし作業等の普及啓発..... 8

③ やまがたゆきみらいシンポジウム..... 10

④ やまがたゆきみらい雪サロン..... 11

⑤ 雪に強い住宅の普及啓発..... 12

⑥ 自治会と行政による協働一斉除排雪..... 13

⑦ 真夏の親子雪体験バスツアー..... 14

⑧ 雪氷熱エネルギーの利用促進と利用団体等への技術支援..... 14

⑨ やまがたゆきみらい調査・研究支援..... 15

⑩ ホームページの運営..... 15

⑪ やまがたゆきみらい大賞..... 16

⑫ 第７回こどもゆきみらいコンセプション..... 17

６．役員名簿..... 18

１．やまがたゆきみらい推進機構の概要

１）設 立 目 的

産学官民の連携ネットワークにより各機関のノウハウを連携・融合し、具体的で実用的な取組みにより降雪がもたらす県民生活への影響を軽減する。

２）事 業 内 容

・地域の幅広い人的交流機会の提供
・研究シーズと事業化ニーズ、県民ニーズのマッチングによる技術移転、研究会活動
・情報インフラを活用した情報ステーション機能
・雪に関する科学技術関連イベントの開催に対する協力、支援
・過疎化、高齢化に対応した雪国のまちづくりに関する活動
・その他、雪対策の振興に関する活動

３）設立の経緯

・世　　話　　人　　会：平成 19 年　9 月 25 日
・発起人会及び設立総会：平成 19 年 10 月 12 日
・発　起　人　代　表：山形大学　大場工学部長（当時）

４）主な事業活動

○各専門部会の主なテーマ

・克　雪　部　会：克雪住宅及び消融雪設備の普及
・ボランティア部会：除雪ボランティア活動の拡大
・利　雪　部　会：雪氷熱エネルギーの利用促進

○村山総合支庁との共催事業

・自治会と行政による協働一斉除排雪　　・安全な雪おろし等の啓発
・雪かき担い手の育成　　・親雪イベントのＰＲ
・雪に関する実態調査の分析、モデルの構築・普及　　など

２．組織図

平成 28 年６月１日現在

会　　長
飯　塚　　博
（山形大学工学部長）

顧　　問
大　場　好　弘
（山形大学理事・副学長）
阿　部　　修
（雪氷防災研究センター雪氷環境実験室）

副　会　長
桂　木　宣　均
（日本地下水開発㈱代表取締役社長）
志　布　隆　夫
（村山市長）
加　藤　祐　悦
（山形県村山総合支庁長）

運営幹事会
（運営幹事21名）

運営幹事長
東　山　禎　夫
（山形大学大学院教授）

【克　雪　部　会】
部会長　山　畑　信　博
（東北芸術工科大学教授）
阿　部　　修
（雪氷防災研究センター雪氷環境実験室）
大　滝　典　子
（㈲親和創建取締役アドバイザー）
桂　木　聖　彦
（日本地下水開発㈱常務取締役）
後　藤　芳　英
（後藤電子㈱代表取締役社長）
深　瀬　　敏
（(公財)山形県産業技術振興機構産学官連携コーディネータ）
水戸部　和　久
（山形大学大学院教授）
柳　橋　健　司
（北村山建設総合組合組合長）
矢　萩　浩　次
（(一社)山形県建築士会村山支部長）

【ボランティア部会】
部会長　東　山　禎　夫
（山形大学大学院教授）
浅　野　信　弥
（村山市河島山地区自治会）
漆　山　友　紀
（山形県社会福祉協議会）
小　玉　　勇
（大石田町福祉ボランティアいこいの会除雪班）
澁　谷　一　俊
（朝日町民生児童委員協議会会長）
二藤部　久　三
（株式会社成和技術専務取締役）
沼　澤　一　夫
（尾花沢市社会福祉協議会事務局長）

【利　雪　部　会】
部会長　横　山　孝　男
（山形大学大学院名誉教授）
赤　塚　信　一
（袖崎雪むろ研究会事務局長）
菅　藤　広　一
（尾花沢市宮沢雪プロジェクト会長）
小　杉　健　二
（雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長）
沼　澤　貞　義
（㈱沼澤工務店代表取締役）

※各専門部会の運営幹事は、五十音順に記載しております。

事務局：山形県村山総合支庁総務企画部北村山総務課
連携支援室

３．会員登録状況

１）入会金

○個人会員　　1,000 円
○法人及び任意団体　　3,000 円

２）会員数

会員内訳	平成 27 年度末	平成 26 年度末
個人会員	**464**	**463**
(1) 一般個人	155 (33.4%)	154 (33.3%)
(2) 大学研究機関	20 (4.3%)	20 (4.3%)
(3) 議会関係	11 (2.4%)	11 (2.4%)
(4) 行政関係	278 (59.9%)	278 (60.0%)
法人会員（法人及び任意団体）	**60**	**60**
(1) 企業・民間団体	57 (95.0%)	57 (95.0%)
(2) 大学研究機関	3 (5.0%)	3 (5.0%)
合　　計	**524** (前年度比＋1)	**523**

３）協賛会員（ホームページへのバナー広告掲載）　【平成 27 年度末】

① 株式会社サン・エコ
② 株式会社カゲサワ
③ 株式会社大仁
④ 日本地下水開発株式会社
⑤ 株式会社成和技術
⑥ フジヒロ株式会社
⑦ 株式会社アジアスター
⑧ 株式会社さとう電熱
⑨ 株式会社 Scut System

（敬称略・掲載申込順）

４．平成 28 年度の事業計画

１）基本方針

降雪がもたらす県民生活への影響を軽減することを目的として、克雪住宅や消融雪設備の普及、除雪ボランティア活動の拡大、雪かき担い手の育成、雪氷熱エネルギーの利用促進、雪氷熱利用県産品のＰＲなどの活動を展開していく。

２）事業計画

時期	事業名	備考
６月	○ 運営幹事会 ○ 平成 28 年度総会・記念講演会	
８月	○ 真夏の親子雪体験バスツアー	利雪部会
１０月	○ 消融雪設備技術展示会	克雪部会
１２月 ～ ３月	○ 県内除雪ボランティア活動状況取りまとめ及び情報共有など ○ 雪かき指導者「雪かきマスター」の募集 （雪かき指導者認定制度の運営）	ボランティア部会 ボランティア部会
３月	○ 運営幹事会	
通　年	○ 雪氷熱利用県産商品のＰＲに向けた取組み （雪氷熱エネルギー活用事例集の改訂） ○ 専門部会の開催（随時） ○ ホームページ等による情報発信	利雪部会 各部会共通 各部会共通

※ 村山総合支庁北村山地域振興局事業との連携

１２月～ ３月	○ 安全な雪下ろし作業等の普及啓発活動 ○ 自治会と行政による協働一斉除排雪作業の実施 ○ 雪処理担い手育成等の実践研修会 ○ 雪かき体験交流会、共助による地域除雪等への支援
通　年	○ 自治会と行政による協働一斉除排雪の拡大に向けた取組み ○ 除雪ボランティア活動の普及に向けた取組み ○ 雪氷熱エネルギー利用促進へ向けた取組み ○ 雪を活用した地域おこし活動への支援 ○ 雪に関する実態調査・モデルの構築・普及 ○ 雪に関するイベント等のＰＲ

５．平成 27 年度の取組み

１）総会・記念講演会の開催

〇期　　日　平成 27 年５月 27 日（水）
〇場　　所　村山総合支庁北庁舎講堂
〇議　　事　平成 26 年度事業報告及び収支決算、役員選任
　　平成 27 年度事業計画及び収支予算
〇表　　彰　平成 26 年度やまがたゆきみらい大賞
　　受賞者　戸沢村名高地区除雪機班
〇記念講演会　「山形県における近年の雪氷災害と対策の課題」
　　国立研究開発法人防災科学技術研究所
　　雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長 博士(理学) 小杉健二 氏

２）運営幹事会の開催

第１回	4/23	山形市市民活動支援センター	平成 26 年度事業報告・収支決算、役員改選、 平成 27 年度事業計画・収支予算
第２回	3/10	村山総合支庁本庁舎	こどもゆきみらいコンセプションの選定、 やまがたゆきみらい大賞の選定、 やまがたゆきみらい推進機構の運営見直し

３）各専門部会の開催

〇克雪部会

第１回	10/8	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度上半期の活動状況、 平成 27 年度下半期の事業活動
第２回	3/10	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度事業報告、 平成 28 年度事業計画

〇ボランティア部会

第１回	10/9	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度事業計画
第２回	3/10	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度事業報告、 平成 28 年度事業計画

〇利雪部会

第１回	10/6	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度上半期の活動状況、 平成 27 年度下半期の事業活動
第２回	3/10	村山総合支庁本庁舎	平成 27 年度事業報告、 平成 28 年度事業計画

４）主な事業活動

① 除雪ボランティア活動の拡大に向けた支援

雪かき指導者認定制度の運営

除雪ボランティア活動を行なう団体や個人に対して、安全な雪かきに関する知識や技術を教示し、安全な除雪活動を推進させていく雪かき指導者（雪かきマスター）を認定する制度を運営しています。（平成 27 年度末認定者：74 名〔うち平成 27 年度新規認定者 21 名〕）

雪かきマスターは、雪かき体験交流会、共助による地域除雪をはじめとする除雪ボランティア活動で活躍しています。

【認定講習会の様子】

雪かき塾の開催支援

中高生を対象に、将来の雪処理の担い手を育成するための除雪ボランティア活動を支援しました。

○開催校

尾花沢市立尾花沢中学校　（１月 27 日　中止）
山形県立楯岡高等学校　（１月 30 日　参加者数 27 名）
山形県立村山産業高等学校　（２月６日　参加者数 21 名）

○参加校（～H27）

尾花沢市立尾花沢中学校、尾花沢市立常盤中学校、大石田町立大石田中学校、
山形県立楯岡高等学校、山形県立村山産業高等学校、山形県立北村山高等学校

【雪かき塾の様子】

雪かき体験交流会及び共助による地域除雪への支援

災害時支援協定等による地域間交流を通じた雪かき体験ボランティア活動や同じ地域の住民による高齢者等要援護世帯の除排雪活動を支援しました。

○雪かき体験交流会

期日	場所	協定等締結先	参加者数
1 月 30 日	尾花沢市	宮城県岩沼市	124 名
2 月 6 日	尾花沢市	宮城県岩沼市	112 名
2 月 6 日～7 日	尾花沢市鶴子地区	仙台市宮城野区福住町	39 名
2 月 6 日～7 日	大石田町	宮城県涌谷町	20 名
2 月 20 日	大石田町	在日外国人（ｲﾝﾄﾞ・ﾑﾙﾏﾃｨ・ﾄﾗｽﾄ）	20 名

○共助による地域除雪

期日	場所	参加者数
1 月 30 日	尾花沢市寺内地区	124 名（再掲）
2 月 6 日	尾花沢市名木沢地区	112 名（再掲）

【岩沼市交流／寺内地区地域共助】

【岩沼市交流／名木沢地区共助】

【涌谷町交流】

【在日外国人(ムルマティ・トラスト)交流】

② 安全な雪下ろし作業等の普及啓発

広報活動

○「安全な雪下ろし作業」ＤＶＤの放映

県内の各市町村、社会福祉協議会等にＤＶＤを配布し、ロビー等の人の集まる場所で放映し、安全な作業の普及に努めました。

○雪下ろしの安全装備品の展示

安全帯等の雪下ろしに必要な装備品を北村山管内の市町、村山総合支庁北庁舎及び県庁舎に展示し、装備の普及を呼びかけました。

村山市役所市民ホール
（2/1～2/9）

尾花沢市役所市民ホール
（1/12～1/20）

大石田町役場町民ホール
（1/21～1/29）

県庁じょんだなホール
（2/15～2/29）

○各種イベントにおける啓発

消融雪設備技術展示会や山形雪フェスティバル会場等において、来場者へ啓発チラシ・ポケットティッシュを配布し、安全な作業を呼びかけました。

○ホームページによる啓発

「やまがたゆきみらい推進機構」のホームページにおいて、国土交通省が公表した「雪下ろし作業の安全10 箇条」を掲載し、事故防止を啓発しました。

【雪下ろし安全 10 箇条（国土交通省）】

街頭啓発活動

○ホームセンター等における啓発

雪害事故防止週間（１月 22 日(金)～２月７日(日)）の期間中に、北村山管内のホームセンター、公衆浴場、遊技場と連携し、来客者に啓発チラシ・ポケットティッシュを配布し、安全な作業を呼びかけました。

○公用車による巡回啓発

平成 28 年１月 15 日から、村山総合支庁公用車に雪害防止啓発看板を設置し、広報テープを放送しながら巡回し、注意を喚起しました。

【公用車による巡回啓発】

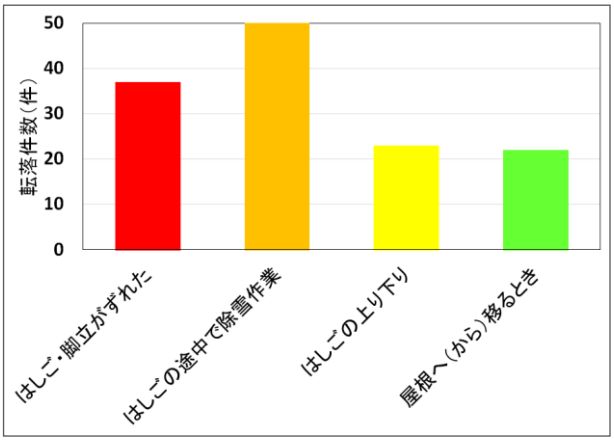
【啓発用ポケットティッシュ】

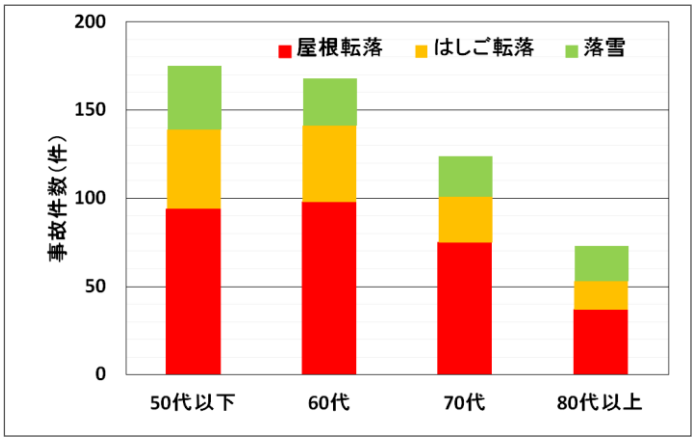
調査研究発表

○雪氷研究大会

雪氷研究大会（平成 27 年９月 13 日(日)～９月 16 日(水)）において、山形県における４冬期におきた屋根雪に関する人的事故から発生状況を分析し、事故防止対策の糸口について検討を行った研究発表を行いました。

・研究発表テーマ「山形県における 2011～2014 年度の屋根雪に関係する受傷事故実態」
・発 表 者　東山禎夫（山形大学），名和正倫（村山総合支庁）
・期　　日　平成 27 年９月 16 日（水）
・場　　所　信州大学理学部（長野県松本市）





【参考】

○村山総合支庁の主な取組み

・公用車による雪下ろし事故防止の巡回広報活動（1 月 15 日～）
・ラジオモンスターによる事故防止の注意喚起（1 月 25 日～）
・村山総合支庁舎(本庁舎･西庁舎･北庁舎)ロビーにおいて、雪下ろし安全装備品等の展示

○県庁市町村課の主な取組み

・雪害事故防止週間（１月 22 日～２月７日）の設定による集中的な広報啓発
・雪下ろし講習会の開催（上山市、大江町、最上町、舟形町、戸沢村、南陽市、川西町、庄内町の８市町村）
・県政番組「やまがたサンデー５」、県政ラジオ「フレッシュインフォメーションやまがた・やまがたリビングインフォーメーション」による広報
・文字放送（ＮＨＫ山形）による広報
・山形県雪情報システムによる情報提供（11 月 13 日～３月 31 日）
・ポスター掲示による啓発（県内全店舗のホームセンター(コメリ、ジョイ、ムサシ、ホーマック、ダイユーエイト))
・DVD 放映、ポスター掲示による啓発（県庁ロビー）

③ やまがたゆきみらいシンポジウム

総会・記念講演会

○期日・会場　　5 月 27 日（水）　村山総合支庁北庁舎（村山市）
○記念講演　　『山形県における近年の雪氷災害と対策の課題』
国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
雪氷環境実験室長　博士(理学)　小杉　健二　氏
○参加者　　74 名

シンポジウム等開催支援

○おらほの宝シンポジウム（尾花沢市）

・期日
12 月 20 日（日）
・会場
尾花沢市文化体育施設
・パネルディスカッション
コメンテーター
二藤部久三運営幹事

④ やまがたゆきみらい雪サロン

消融雪設備技術展示会

県内の消融雪設備事業者が開発した技術を紹介し、それぞれの住宅に適合する雪処理情報を広く提供するため、消融雪設備技術展示会を開催しました。

〇期日・会場
10 月 25 日（土）～26 日（日）
山形県総合運動公園駐車場(天童市)
（山形県農林水産祭と併催）

〇来場者　465 名

〇出展者　7 社
- 株式会社アジアスター
- 株式会社 ScutSystem
- 株式会社大仁
- 後藤電子株式会社
- サン・エコ株式会社
- 日本地下水開発株式会社
- 有限会社ゆきぐに　（五十音順）

【出展者ブースの様子】

～除雪ボランティア活動の拡大に向けて～　意見交換会 in 置賜

除雪ボランティア取組み団体の地域間ネットワークの構築など、除雪ボランティア活動の拡大に向けた意見交換会を開催しました。

〇期日・会場　11 月 28 日（土）　長井市中央地区公民館（長井市）
〇コーディネーター　山形大学大学院教授　東山　禎夫　氏
〇参加者　各ボランティア団体、置賜地区各市町村社会福祉協議会、置賜地区各市町村雪対策担当課　等　35 名

⑤ 雪に強い住宅の普及啓発

各種イベントにおいて「雪国の住まいハンドブック」を配布するとともに、「屋根雪処理チェックシート」、「雪に強い住宅モデル模型」等を活用して、「雪に強い住宅」の普及啓発を行いました。

雪国の住まいハンドブック(H24.11 発行)

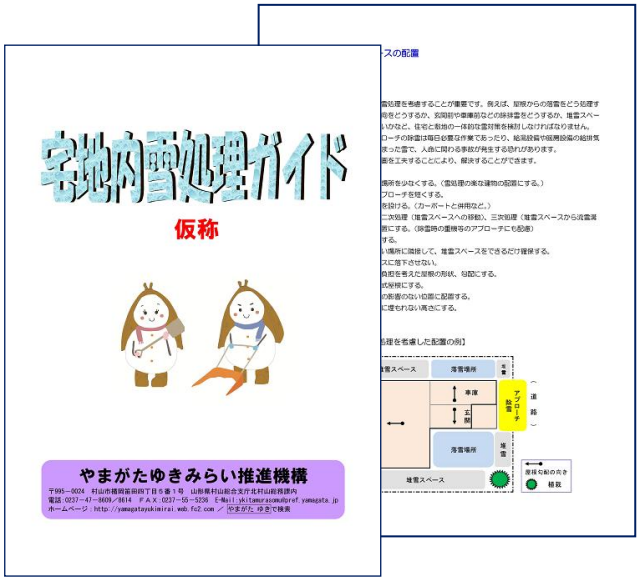
屋根雪処理チェックシート(H23.8 発行/H27.1 改訂)

○雪に強い住宅モデル模型（H23.5 制作）

○「宅地内雪処理ガイド（仮称）」

「雪国の住まいハンドブック」の姉妹編として、「宅地内雪処理ガイド（仮称）」を発行するための情報収集を行いました。

※「宅地内雪処理ガイド(仮称)」は、平成 28 年内に発行予定です。



⑥ 自治会と行政による協働一斉除排雪

自治会（住民）と行政（道路管理者）が協働で行う除排雪作業を、平成 28 年 1 月 24 日（日）に村山市河島山地区で、1 月 31 日（日）に村山市袖崎地区で実施を予定しておりましたが、いずれも少雪のため、中止となりました。

平成 25 年 1 月に実施した村山市河島山地区での官民協働一斉除排雪の状況は以下のとおりです。

【一般県道東根長島線】

【市道河島ニュータウン線】

協定締結地区

- 村山市袖崎地区　（平成 21 年 2 月 4 日締結）
- 村山市河島山地区　（平成 21 年 2 月 6 日締結）
- 尾花沢市五十沢地区　（平成 21 年 2 月 9 日締結）
- 尾花沢市常盤地区 4 区間　（平成 24 年 1 月 4 日締結）

自治会と行政による協働一斉除排雪に係る研修会・説明会等の開催

〇尾花沢市	平成 27 年　7 月 29 日（水）	村山総合支庁北庁舎
〇新庄市区長協議会	平成 27 年 11 月 12 日（木）	河島山地区交流センター
〇舟形町一斉除排雪事業検討会	平成 28 年　2 月 19 日（金）	舟形町中央公民館

⑦ 真夏の親子雪体験バスツアー

雪氷研究施設や雪氷熱エネルギー利用施設、雪にまつわる生活や歴史文化を学び、子どもたちの雪に対する興味や探究心を育む機会を提供しました。

○期　日　８月７日（金）
○場　所　ＪＡ新庄市ゆきむろ倉庫、雪の里情報館、雪氷防災研究センター雪氷環境実験室
○参加者　17 組 40 名の親子

⑧ 雪氷熱エネルギーの利用促進と利用団体等への支援

各種イベントにおいて「雪氷熱エネルギー活用事例集」を配布するとともに、各種雪活用研修会等の開催支援を行いました。

○雪活用農業生産技術研修会（飯豊町）
- **期日・会場**　　７月 30 日（木）　飯豊町中部地区公民館
- **事例紹介**　「県内における農業分野の雪利活用の取組みと課題について」
  鈴木勝治 氏（県農業総合研究センター/やまがたゆきみらい推進機構利雪部会員）

○袖崎雪むろ研究会 20 周年記念式典（村山市）
- **期日・会場**　　11 月 13 日（金）　村山市クアハウス碁点

雪活用農業生産技術研修会（H27.7.30）

袖崎雪むろ研究会 20 周年記念式典（H27.11.13）

（円内：雪むろで保管された 22 年前の米）

○雪氷熱エネルギー利用県産品調査

雪氷熱をより身近なエネルギーとして利用推進するために雪むろを活用して熟成させた農産物や日本酒などを通してＰＲするため、雪氷熱を利用した県産品の調査を行っています（継続中：雪氷熱エネルギー活用事例集を改訂予定）。

雪氷熱エネルギー活用事例集(H26.12 発行)

雪氷熱エネルギー活用県産品の一例

⑨ やまがたゆきみらい調査・研究支援

克雪住宅や消融雪設備の普及、ボランティア活動への支援、環境にやさしい雪冷熱エネルギーのの利用など、機構会員が自ら取組む雪国のニーズにあった「調査・研究」への支援を行いました。

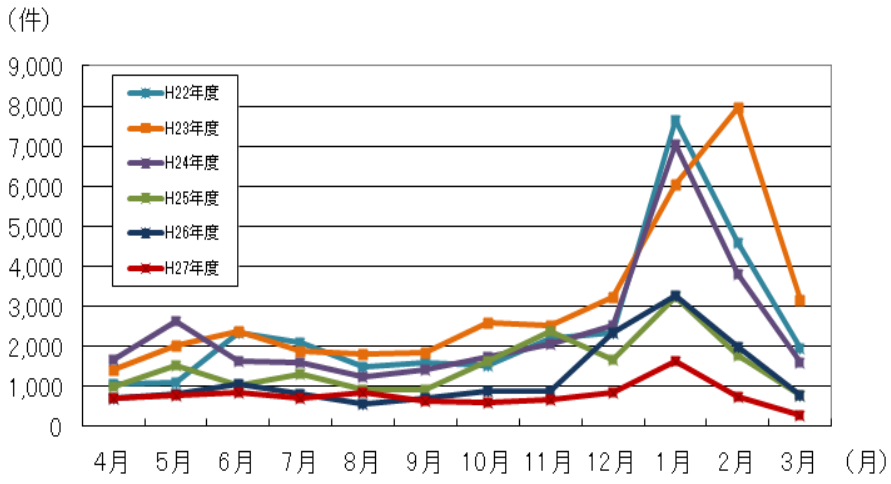
○支援件数　１件

「雪処理に関わる用具・道具の摩擦係数の測定」　東山禎夫 氏（山形大学）

⑩ ホームページの運営

各種イベント情報の発信や雪対策に関する以下の情報を公開しています。

・雪氷熱エネルギー活用事例集
・安全な雪下ろし作業ＤＶＤ
・雪国の住まいハンドブック
・屋根雪処理チェックシート
・県内の消融雪事業者の紹介
・雪むろマップ
・雪冷房マップ　など



ホームページへのアクセス数

⑪ やまがたゆきみらい大賞

「やまがたゆきみらい大賞」は、雪の地域資源としての活用や雪国の生活を克服する、先進的な、あるいは他地域への模範となる活動を通じ、地域おこしや雪国の快適な暮らしづくりに貢献している個人や団体の取組みに対し、活動の普及拡大や奨励を目的として表彰するものです。

平成 27 年度（第８回）は、３団体を表彰しました。

～　株式会社六歌仙（東根市）　～

冬にもたらされる雪の恵み、古くから有効に活用されてきた雪の有り難さを、足元からしっかりと見つめ直し、地域や来場者と共に雪に感謝する企画「蔵参観『雪中熟成酒掘り出し』」を開催しています。

蔵人が丹精込めて造った純米吟醸酒を、雪の多い１月に雪中に埋め、３月初めの「蔵参観」の日に掘り出し、雪の恵みに感謝、雪中で熟成されたお酒は、雪の中で柔らかくとけだした米の旨味が雪解けを感じさせ春の訪れを教えてくれているかの様です。

～　山建工業株式会社（米沢市）　～

豪雪地である米沢市南原地区において、高齢者宅の安全・安心な暮らしを確保するために、除雪ボランティア活動を 16 年前から行っています。

デイケア送迎車の通行やお弁当の配達などに支障をきたさないよう早朝から活動するなど、実効性の高い活動となっており、地区内の高齢者宅のほかゴミステーションなどの除雪も行っています。

また、「上杉雪灯籠まつり」では、建設業者ならではの技術力と作業力を活かして、高さ５ｍの巨大雪灯籠を自社経費で製作し、観光客の話題となっています。

～　上山市民族行事「加勢鳥」保存会（上山市）　～

旧正月の雪中、厳寒の時期に行われる「加勢鳥」は、五穀豊穣・家運隆盛をもたらす歳神様の来訪行事で、約 400 年前の寛永年間に始まった民族行事です。明治時代に廃止されましたが、昭和 34 年に市民有志により復活し、昭和 61 年に「上山市民族行事『加勢鳥』保存会」が結成され継承されています。

厳寒の時期にケンダイと呼ばれる藁蓑と雪わらじを身に付け、裸同然に水を掛けられる過酷なものですが、全国の若者が加勢鳥に応募、沿道の商店街や温泉街では多くの観光客が祝いの水を勢いよくかけ、「家内安全」「五穀豊穣」を願っています。

⑫ 第８回こどもゆきみらいコンセプション

友達や家族と楽しく遊び親しんだ雪の記憶、そして雪と共存していく未来への思いを子どもたちの自由な発想と創造的な感性で絵画に表現することで、我が郷土「雪国やまがた」に誇りと親しみを持つ契機となることを目的とした絵画コンクールで、平成 27 年度で８回目の開催となりました。

○作品テーマ　「雪とみらいの私」
○応 募 資 格　山形県内在住の小学生
○応募作品数　24 作品（低学年の部 17 作品、高学年の部 7 作品）

【　大　賞　】

＜低学年の部＞
「雪がキラキラふってきた」
竹俣　唯音（天童市立天童南部小学校３年）

＜高学年の部＞
「お兄ちゃんとお手伝いの後のお楽しみ」
佐藤美沙綺（鶴岡市立朝暘第二小学校６年）

【　入　選　】

＜低学年の部＞
「雪だるまが雪をふらせているよ」

＜高学年の部＞
「雪とお城のファンタジー」

＜低学年の部＞
「スキーとソリ、どっちもたのしいな」

＜低学年の部＞
「よるのかまくら、きれいだな」

※入選作品の児童氏名は省略。

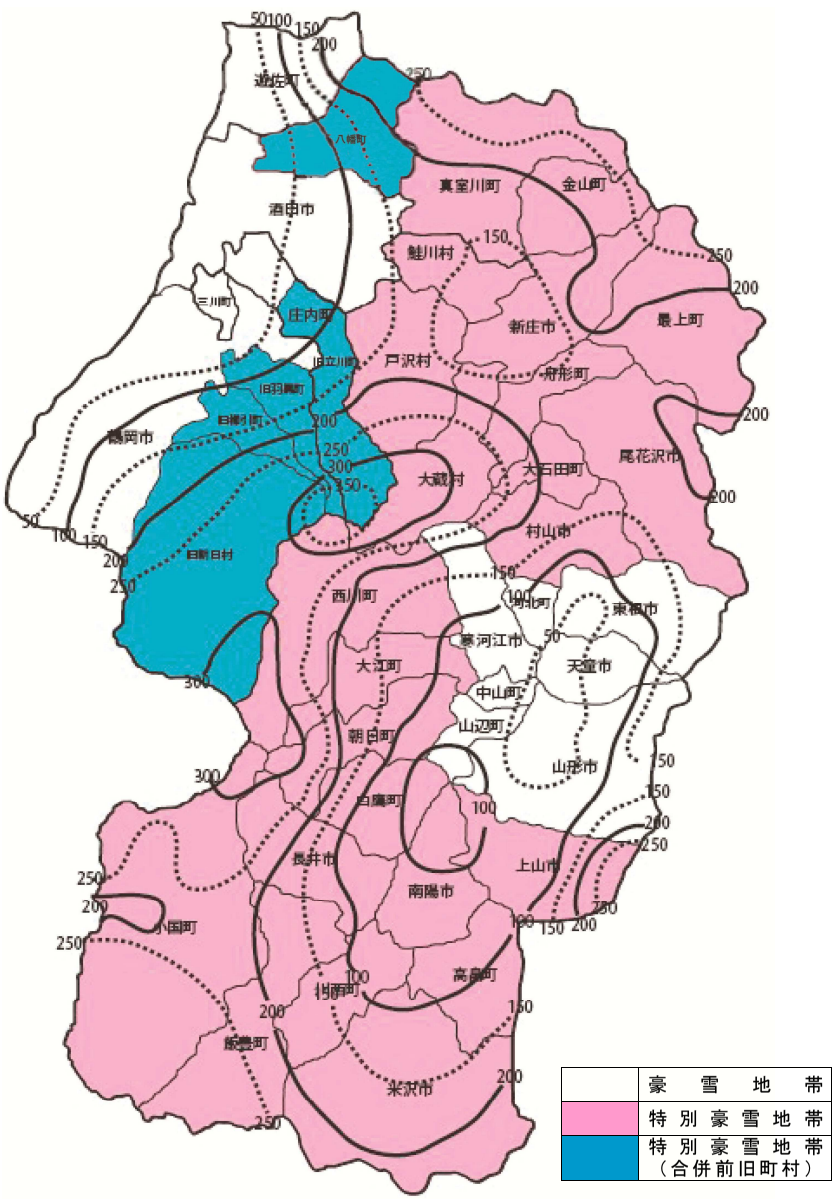
６．役員名簿

平成 28 年６月１日現在

役職	氏名	所属・職名	備考
会　　長	飯　塚　　博	山形大学工学部長	
副　会　長	桂　木　宣　均	日本地下水開発株式会社代表取締役	
	志　布　隆　夫	村山市長	
	加　藤　祐　悦	山形県村山総合支庁長	
運営幹事	東　山　禎　夫	山形大学大学院理工学研究科教授	幹事長 ボランティア部会長
	横　山　孝　男	山形大学大学院名誉教授	利雪部会長
	山　畑　信　博	東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科教授	克雪部会長
	赤　塚　信　一	村山市袖崎雪むろ研究会事務局長 （手打ちそば「ゆきむろ」店主）	利雪部会
	浅　野　信　弥	村山市河島山地区自治会	ボランティア部会
	阿　部　　修	国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター雪氷環境実験室	克雪部会
	漆　山　友　紀	山形県社会福祉協議会主事	ボランティア部会
	大　滝　典　子	有限会社親和創建取締役トータルアドバイザー	克雪部会
	桂　木　聖　彦	日本地下水開発株式会社常務取締役	克雪部会
	菅　藤　広　一	尾花沢市宮沢雪プロジェクト会長 （有限会社菅藤組代表取締役）	利雪部会
	小　杉　健　二	国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長	利雪部会
	小　玉　　勇	大石田町福祉ボランティアいこいの会除排雪班 （大石田町議会議員）	ボランティア部会
	後　藤　芳　英	後藤電子株式会社代表取締役	克雪部会
	澁　谷　一　俊	朝日町民生児童委員協議会会長	ボランティア部会
	二藤部　久　三	株式会社成和技術専務取締役	ボランティア部会
	沼　澤　一　夫	尾花沢市社会福祉協議会事務局長	ボランティア部会
	沼　澤　貞　義	株式会社沼澤工務店代表取締役	利雪部会
	深　瀬　　敏	公益財団法人山形県産業技術振興機構 産学官連携コーディネータ	克雪部会
	水戸部　和　久	山形大学大学院理工学研究科教授	克雪部会
	柳　橋　健　司	北村山建設総合組合組合長 （柳橋工務店代表）	克雪部会
	矢　萩　浩　次	一般社団法人山形県建築士会村山支部長 （有限会社矢萩浩次設計事務所代表取締役）	克雪部会
会計幹事	庄　司　三　輝	山形大学米沢ｷｬﾝﾊﾟｽ事務部研究支援課副課長	
監　　事	宮　古　　浩	村山市政策推進課主幹	
	安　井　正　義	尾花沢市定住推進課長	
事務局長	岩　田　　徹	山形県村山総合支庁北村山地域振興局長	

※　運営幹事については、各専門部会長を除き、50 音順に記載しています。

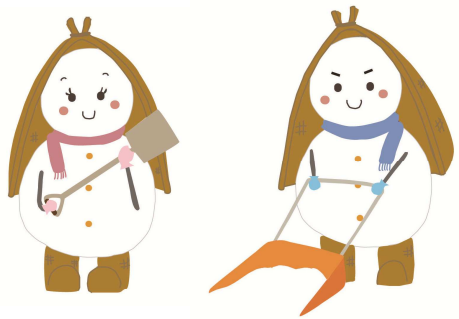
山形県の最大積雪深（平均）等高図・豪雪地帯指定図



（提供：独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター雪氷環境実験室）

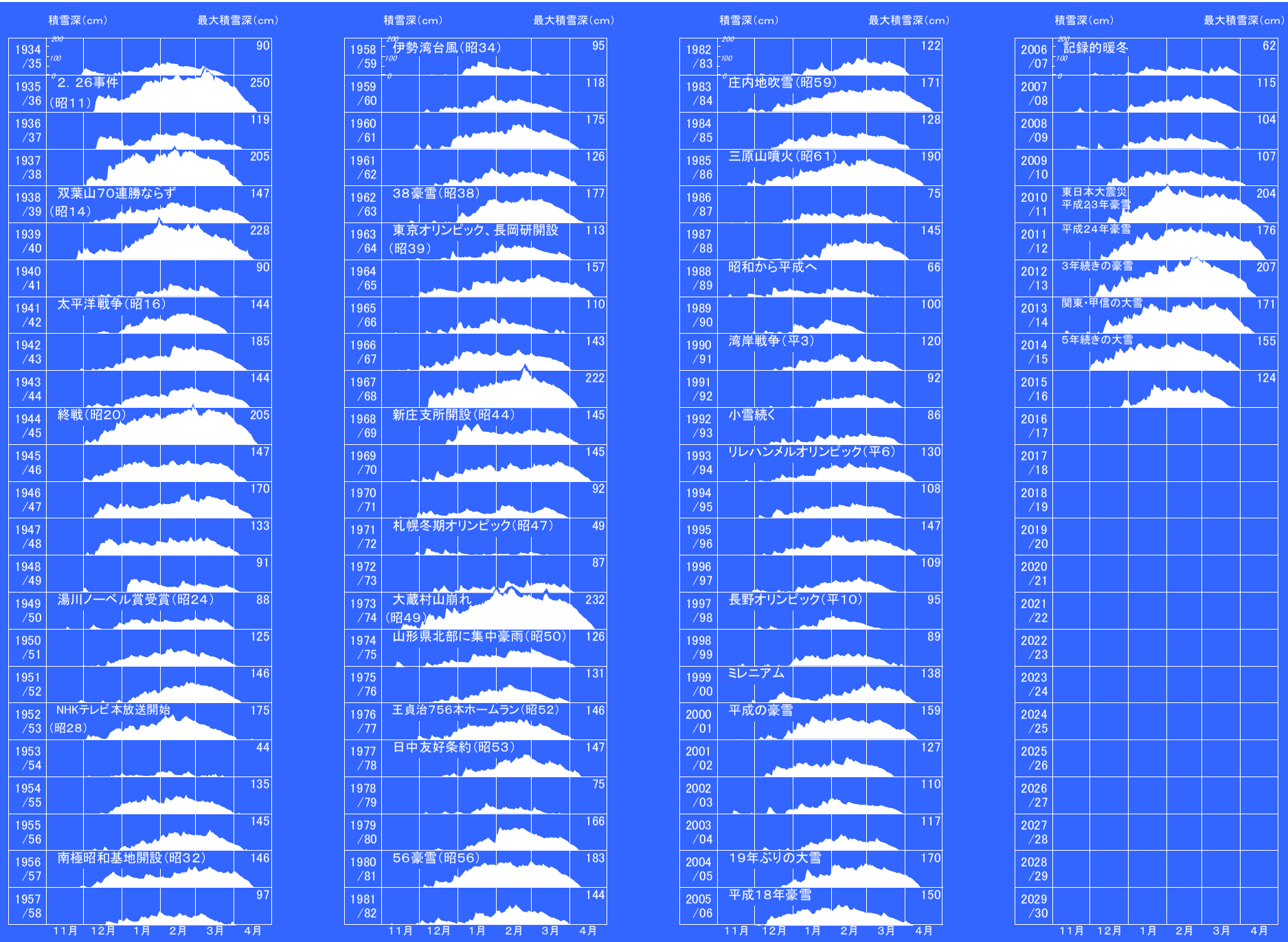
豪雪地帯対策特別法に基づく豪雪地帯等の指定

区分	指定市町村
豪　雪　地　帯	山形市、上山市、天童市、山辺町、中山町、寒河江市、河北町、西川町、朝日町、大江町、村山市、東根市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、米沢市、南陽市、高畠町、川西町、長井市、小国町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市、酒田市、庄内町、三川町、遊佐町 （35 市町村）
特別豪雪地帯	上山市、西川町、朝日町、大江町、村山市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村、米沢市、南陽市、高畠町、川西町、長井市、小国町、白鷹町、飯豊町、鶴岡市（旧羽黒町、旧櫛引町、旧朝日村）、酒田市（旧八幡町）、庄内町（旧立川町） （26 市町村）



ゆきちゃん　　みらいくん

ゆきみちゃん



新庄の積雪深の年変動

測定　1934年～1952年　：(財)雪国協会新庄気象観測所
1952年～1974年　：気象庁新庄測候所
1974年～　：防災科学技術研究所

「やまがたゆきみらい推進機構」設立趣意書

平成 19 年 10 月 12 日

山形大学工学部長（当時）　大場　好弘
東北芸術工科大学総合研究センター長（当時）　上原　勲
雪氷防災研究センター新庄支所長（当時）　佐藤　威
山形県消融雪システム研究会副会長（当時）　桂木　聖彦
村山市長（当時）　佐藤　清
山形県村山総合支庁長（当時）　小松　幸勇

設立の趣意

県内全域が豪雪地帯である本県にとって、降雪がもたらす県民生活への影響を軽減するための「雪対策」は、科学技術の進歩した今日でも、未だ解決されない有史以来の重要な課題となっています。

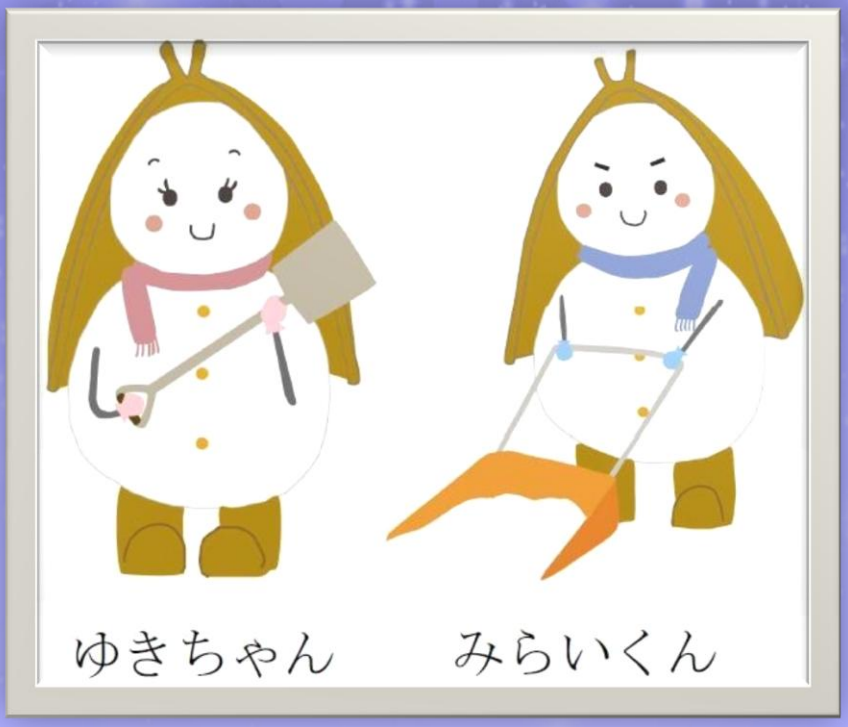
本県をとりまく近未来の環境を俯瞰してみると、人口の過疎化と高齢化、自然環境の保全、雪国のハンディキャップ等はまさしく地域が直面する喫緊の課題であり、地域の実情やニーズを踏まえたきめ細かな対応が求められています。これまでも地域の雪対策として、雪国各地で具体的な試みがなされていますが、未だ確立した技術や手法を手に入れるまでには至っておりません。

こうした雪の課題に産・学・官・民が連携し、住民と協働して積極的に取り組むことによって、地域に適した先駆的な技術とシステムが確立されていくならば、つらく厳しい雪国生活の様相を一変させることが期待されます。過疎化、高齢化への対応など、本県地域がいち早く突入する社会的状況を踏まえた先進的な雪対策の取り組みや技術開発を重点的、且つ、戦略的に展開することによって、総合的な雪対策のパイオニア的存在となり、快適な雪国地域の創造に寄与することができると考えます。

豊かな自然の恵みは、ときに優しく、ときに厳しくそこに生活するものたちを育んできました。本県は、故松岡俊三代議士の雪害救済運動などの先人の活躍により、「雪対策施策発祥の地」として全国的な評価を受けているほか、各地域には雪に親しみ、雪と闘い、雪を利するさまざまな先人の知恵が残されています。まさに、雪対策の「メッカ」として発展する下地が整っている地域でもあります。したがって、地域の産学官民の力を結集して、広範な研究プロジェクトがさまざまな場面で展開されていく状況を作り出していくこと、そしてそれらの成果を発信していくことが大切と考えます。

私たちは、今こそ県民一人一人の英知と地域の潜在能力を引き出しながら、本県地域における雪対策の新しいうねりを起こす仕組みづくりを進めていきたいと思います。最初に、地域の産業界、大学、行政などセクターを越えた人的なネットワークづくり（出会いの場）を行います。産・学・官・民の連携を契機にして、さまざまな交流の輪となり、やがて克雪技術の研究などの特定の目的を持ったグループが息吹となり、それが形となった成果を発表し、普及、啓発を行っていくことを目指します。すなわち、雪関連の人材ネットワークを基盤にしながら、快適な雪国生活をしていくための雪対策の情報発信基地となるものです。

私たちは、これを「やまがたゆきみらい推進機構」として設立します。



やまがたゆきみらい推進機構事務局
〒９９５－００２４　村山市楯岡笛田四丁目５番１号
山形県村山総合支庁北村山地域振興局北村山総務課連携支援室内
電話：０２３７－４７－８６１４／ＦＡＸ：０２３７－５５－５２３６
メール：ykitamurasomu@pref.yamagata.jp

やまがたゆきみらい推進機構ホームページ
http://yamagatayukimirai.web.fc2.com　又は「やまがたゆきみらい」で検索